

初夏

和菓子四季

今号から新シリーズ「和菓子の四季」をお届けします。季節が巡るにつれて自然の景観が、人々の心と暮らしが、そして当店がつくる和菓子も移ろっていきます。四季のある国に生まれた幸せ。

ここ津和野にも爽やかな風が吹き始めました。新入学、新学期を迎えた子供たちの元気な声が、通学路から聞こえてきます。

その子供たちが楽しみにしているのが、毎年4月に行われる『花まつり』。別名、灌仏会ともいい、釈迦の誕生を祝う仏教行事ですが、津和野の伝統行事の一つになっています。カラフルな衣装を着た稚児たちが、花御堂を乗せた白象を引いて町中をパレードします。

花まつりが終わって間もない4月の第2日曜日は、現存する流鏑馬の馬場としては最古の姿を残す鷲原八幡宮で『流鏑馬神事』が開催されます。鎌倉時代の衣装を纏った射手が、馬場を駆け抜けながら、馬上から三つの的に向けて次々と矢を放ちます。鷲原八幡宮は桜の名所でもあり、桜の時期には花見客で賑います。

5月に入ると、キリシタン殉教者に捧げられる『乙女峠まつり』が3日に、日本五大稲荷の一つである太鼓谷稲成神社の『春の大祭』が15日に、各々行われます。乙女峠で歌われる聖歌の調べは、聴く人の胸に静かに沁みてきます。春の大祭での楽しみは、本殿での諸行事と共に、殿町から表参道一帯に出るたくさん露店。そぞろ歩くと、祭り気分もいや増します。

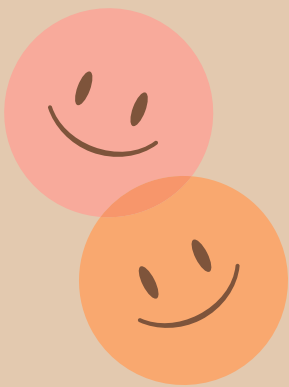
さてここで、4月から5月にかけての時期にご用意できる三松堂の和菓子をご紹介します。当店には源氏巻や鯉の里など通年販売のものもありますが、この季節ならではの妙味を楽しんでいただけたらと思います。

よもぎの大福(4月5日、本わらび餅(4月5日、柏餅(4月15日~5月5日)、ちまき(4月28日~5月5日)、枝豆の大福(5月6日、鵜外(9月~5月)、花游菓(杏(3月~5月)、ふくしろ(3月~5月)、あやめ餅(3月~5月)、みあん梅(5月~8月)、練羊羹(12月~5月)。

5月も下旬になると、殿町にある堀割に花菖蒲が咲き始めます。清流に泳ぐ鯉を愛でながら堀に沿ってゆっくり歩むと、三松堂の先代が、自店の和菓子に『鯉の里』と名付けた理由が、わかるような気がしてきます。

Close-up

私の役割———〈販売スタッフ〉



お客様に満足していただくこと、スタッフに気を配って心をついにまとめること(高橋)、お客様に一時の幸せを感じていただけるような接客をすること(塩見)、それが私たちの役割です。

〈販売スタッフ:高橋久美子〉

本店・店長。昭和34年生まれ。長崎市出身。平成2年に入社後、菓心庵店長を経て現ポストに。車窓から眺める旅の景色が好き。大の映画ファンで、ハリソン・フォード命。最近では山Pも。座右の銘は、初心忘るべからず。

〈販売スタッフ:塩見千代子〉

販売責任者。昭和23年生まれ。山口市阿東出身。平成7年入社。菓心庵に勤務したのち、本店に移る。趣味の音楽鑑賞は、クラシックやジャズをLP盤で。好きなものは仕事のアトのビール。夫婦そろってアサヒ派です。

- 店長として店全体をみています。接客と販売だけでなく、翌日つくる源氏巻などの数量を考えたり、パソコンを使って宅配業務を行ったり、卸しの仕事で配達したりします。毎月一日は、太鼓谷稲荷神社の参拝客に備えて早朝から開店しています。入社して良かったことは、相談役と専務に出会えたことです。三松堂のあたたかさの基本は、お二人にありますね。(高橋)
- 朝出勤すると、まず店内を掃除してから、お茶の用意をします。冬季には炭火熾しも。それから、入口と店内に生花を飾ります。自然に咲く四季折々の花を使っていて、調達するのは私の役目なのですが、それがとても楽しいです。三松堂に入ってよかったのは、相談役と専務から、人と物を大切にすることを学ばせてもらったことです。(塩見)



春



鯉の里:1個110円(税込)